

令和3年度 第1回太子町総合教育会議

1. 日 時 令和4年2月17日(木)
開会 午前10時20分 閉会 午前11時15分
2. 場 所 太子町役場 万葉ホール
3. 出席者

(構成員) 太子町長 教育長 教育長職務代理者 教育委員 教育委員 教育委員	田中 祐二 勝良 憲治 中堅 正幸 上籾 久美子 明石 志郎 筒井 完次
(事務局) 副町長 政策総務部長 秘書政策課長 秘書政策課課長補佐 教育次長 教育総務課長 教育総務課学務指導担当課長	藤原 幹 小角 孝彦 東條 信也 小泉 大吾 池田 貴則 正野 正 矢野 敦則
4. 議 題 (1) 小中一貫教育について
(2) その他
5. 配布資料 太子町小中一貫教育基本方針
太子町小中一貫教育基本方針～新たなつながりで育む太子の子～
6. 傍聴者 なし

《総合教育会議議事録》

○東條課長

皆さん、おはようございます。総合教育会議の事務局を担当させていただいております秘書政策課の東條といいます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、令和3年度太子町総合教育会議にご出席いただきましてありがとうございます。ただ今から、総合教育会議を始めさせていただきます。

それでは、会議に先立ちまして、田中町長から挨拶をお願いします。

○田中町長

はい、皆さん、改めましておはようございます。開会にあたりましてご挨拶を申し上げます。

本日は、先ほどの定例会に引き続き、総合教育会議にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。また、平素より太子町の教育行政にご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症の脅威が続いており、日常生活はもとより、学校現場におきましても ICT 活用によるハイブリッド型授業の推進など、教育の在り方も見直さざるを得ない状況の中、本町においてもその対応に努めているところでございます。何より直接教育に携わる方々のご苦勞は絶えないと思いますが、改めてこの場をお借りいたしまして心より感謝を申し上げます。

さて、本日開催の総合教育会議は、皆さんもご承知のとおり、教育施策の方向性を共有するため、協議・調整を行うものであります。本町の教育の課題及び目指す姿を教育委員の皆様と共有しながら、連携して効果的に教育行政を推進してまいりたいと考えていますので、忌憚のないご意見を賜りたいと思っております。本日の会議が、教育行政のさらなる充実、発展に寄与することを期待いたしまして、開会にあたりましての挨拶とさせていただきます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

○東條課長

ありがとうございました。会議を始めさせていただきますが、議事の進行につきましては、太子町総合教育会議運営要綱第4条第1項により、本会議の議長である田中町長にお任せしたいと思います。それでは田中町長、よろしくお願いいたします。

○議長（田中町長）

それでは、進めさせていただきます。本日の議事に入りたいと思います。お手元

の会議次第により進めさせていただきます。

まず、議題の1. 「小中一貫教育について」説明を求めます。説明後に委員よりご感想をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

○矢野学務指導担当課長

それでは、私からは町立小中学校における小中一貫教育基本方針について、お手元の資料に沿ってご説明いたします。

まず、はじめに小中一貫教育が求められる背景でございますが、令和3年度より小中学校の学習指導要領が全面改訂されたことを受け、小中学校が連携して義務教育9年間を見通し、一貫した指導を積み重ねることがさらに重要であることが示されております。同時に「知・徳・体」のバランスの取れた人材の育成や、グローバル化、情報化が一層加速し、これまで以上に変化の激しいこれからの時代を切り拓いていく人材の育成が求められています。本町におきましても、町立小中学校においては学力向上をはじめ、様々な教育課題があり、今現在も取り組みを進めているところですが、小学校2校、中学校1校という、町全体が一つの中学校区である地域性を生かし、小学校と中学校を合わせた9年間の系統性、連続性に配慮した一貫性のある教育活動を推し進めることで、各学校がさらに連携を強化し、町全体で次代を担う子どもを育てていく必要性が高まっております。そのため、次に述べる観点から小中一貫教育基本方針を策定いたします。

1. 小中一貫教育の目的についてですが、本町はこれまでも小学校から中学校への円滑な接続を図る観点から、小中連携によるさまざまな取り組みを継続して行ってきました。しかし、小学校と中学校において連携を推進する上でいくつか課題がある状況です。そこで、義務教育9年間の系統性と連続性に配慮した教育活動の展開と、指導体制や学習指導方法などの充実を図ることを目的として、これまでの小中連携教育から、小中一貫教育へと取り組みを発展させます。その上で、太子町では、これまでの小中連携教育から一步進んだ小中一貫教育を実施することにより、夢を実現するための「知識技能」、社会を切り拓く「思考、判断、表現力」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養(かんよう)を育むことをめざします。

続いて、2. これまでの太子町における小中連携教育についてですが、これまでも町立小中学校においては、児童生徒の心身の変容を考慮した小中学校間の円滑な接続に努めてまいりました。小学校6年生を対象とした「体験入学」の実施や幼小中の教職員が研修などで交流する「わがまち教職員研修会」の実施、めざす子ども像を共有する中でのキャリア教育の充実とキャリアパスポートの活用などを実施して参りました。枠組みとして、幼小中の教職員を構成員とする生活指導、学力向上、特別支援、外国語教育など、町独自の研究組織を位置づけ、各学校の実情に合わせて取り組みを進めて参りました。今後はこの枠組みを活用しながら、義務教育9年間の系統性と連続性に配慮した教育活動の展開と、指導体制や学習指導方法などの充実を図る

観点から、小中一貫教育を推進していきます。

3. 期待される効果及び4. 具体的な取り組みとしては、小中学校の教職員が一体となって児童生徒の義務教育9年間でめざす子ども像を見通せるようになるとともに、指導体制や学習指導方法などを工夫することで、教職員が長期にわたって児童生徒の理解を深めていけるようになります。実践にあたり、別添資料のリーフレットに示す5つの柱をもとに取り組んで参ります。

1つ目は、めざす子ども像の共有を図ることで、確かな学力及び体力の定着と向上に取り組めます。学力向上推進委員会において、子どもたち一人ひとりの発達段階に応じた指導やICT機器の効果的な活用などに取り組めます。

次に学校生活への適応力の向上です。現在町立小中学校において、不登校児童生徒が増加傾向にあります。子どもたちそれぞれに個別の事情があり、一括りにした指導では対応できませんが、個々の置かれている環境に寄り添いながら子どもたちの居場所としての学校の在り方について教職員が考えていきます。

3つ目に豊かな人間性の育成です。各学校に在籍する「道徳教育推進教師」が中心となって、平成25年度から8年間、幼小中の教職員がそれぞれ道徳の授業について研究授業を実施し、太子町の道徳教育の在り方について研究を深めました。今後は「めざす子ども像」の共有を推し進め、総合的な学習の時間などのカリキュラムの交流を行っていききたいと考えています。

4つ目に教職員の指導力向上です。中学校教員による、小学校の専科指導や小中学校間の人事異動など、いわゆる小学校と中学校の文化の違いを、理解し合いながら、小学校教員のきめ細やかな指導と、中学校教員の専門性のある授業を融合させることで互いの指導力の向上につなげたいと考えています。

最後に、郷土を愛する心とグローバルな人材の育成です。既存の外国語教育推進委員会においては、小学校英語・外国語活動のカリキュラムを作成し、中学校の英語教育につなげています。また、学校と家庭、地域それぞれが教育機能の充実を図ることで、相互に連携を強化しながら、三者が一体となって取り組み、今学校が直面している課題に取り組んで参ります。

以上の取り組みを実践することで、めざす子ども像の共有、教育課程の編制、小学校高学年での教科担任制の実施、小中学校及び小学校相互の児童生徒間の交流などを予定しています。その過程において、ICT機器やキャリアパスポートを活用することで、距離や学年の壁を取り払う取り組みを行います。

5. 実施形態ですが、既存の施設をそのまま活用する施設分離型において実践する予定です。

6. 実践に向けての教育活動推進組織については、「小中一貫教育推進委員会」を設置し、諸課題について検討したうえで、課題に応じたTF（タスクフォース）を設置し、実践していきます。

7. 年次計画について、今後は年度ごとに重点取組みを設定しております。本年度は小中一貫教育推進委員会を設置し、これまでの実践を集約するとともに、小中学校

の連携について意見を交流いたしました。その中で浮かび上がってきた課題について取り組んでいくため、次年度については「教職員の交流」を重点取組といたします。小中学校は、学級担任制と教科担任制に代表されるようにそれぞれの文化がありますが、「学校生活への適応力の向上」をテーマにして研修を実施し、交流を深めていきます。令和5年度には、教職員のみならず、児童生徒が交流できるよう、既存の学校行事に工夫をこらすよう取り組みを進めます。令和6年度には小中一貫教育の観点で各校のカリキュラムを見直し、さらに交流を深める取り組みを実施いたします。

8. 実施に係る具体的実践と今後の課題、方向性としましては、これまでの取り組みや各学校が歩んできた歴史などを大切に、学校行事やカリキュラムを見直していくことで、それぞれの小学校で学びながらも、中学校で一つとなったときに、段差なく学び続けられる環境を創っていきます。施策として、小学校高学年における専科指導を実施し、より専門性の高い授業をめざします。また、小中学校すべての学年において、35人学級の完全実施をいたします。さらに、小中学校「理科」、「生活科」においてデジタル教科書を導入し、タブレット端末をはじめとするICT機器の活用を促進いたします。同時に教職員の授業力向上をめざし、小中学校教員の相互授業参観も実施する予定です。行事としては、中学校体験入学の取り組みを、小中の段差解消に重きを置き、生徒会役員が中学校を動画で紹介するなどの取り組みも検討しています。また、全国体力・運動能力調査の種目別に、町内の小中学生が自身の記録を入力し、コンテスト方式で取り組めるコンテンツも作成中です。そのほか、小中学校間の教職員の人事異動など、積極的な人事交流も行いながら、幼小中教職員合同の研修会を実施予定です。

以上の取り組みについて、令和4年度を一つの節目として、太子町の教育を小中一貫教育の観点でさらに活性化していく予定です。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大など、数年前には予想すらできなかった現実と向き合いながら、まさに予測困難な未来を生き抜く子どもたちを育成するため、新たなつながりとしての小中一貫教育をめざしてまいります。

以上で、小中一貫教育基本方針の説明を終わります。よろしくお願いいたします。

○議長（田中町長）

それでは、ただいまの内容について、何かご感想等はございませんでしょうか。

○勝良教育長

今説明がありましたように、この小中一貫教育につきましては、昨年度、実行委員会を立ち上げさせていただきまして、各先生方からのご意見を聞かせていただきました。小学校から中学校に上がる時に不登校の生徒が非常に増えるというのが教育委員会として長年の課題でございます。中々一気に解消できない部分がございます。先生方にも協力いただいて連携教育ということで進めてまいりましたが、未だに不登校の生徒が多いというのは太子町の大きな課題でございます。

それに対して小学校、中学校が連携をして子どもたちに同じような形での指導を徹底していくということで、特に段差というところで言われますのは、教科担任制と学級での集団的な指導というところで、中学校と小学校の文化の違いというところで、なじめない、そこで不登校になってしまうという現状もございますのでできるだけ、今国の方でも教科担任制を強く推し進めていただいております。

太子町としましては、小中連携担当とかというような形で、中学校の先生が小学校に行って、授業を行うなど試みておりますが、全体的にこれからは中学校の先生と小学校の先生の交流を強く進めていきたいと考えております。特にいろいろな特色を持っておられる先生が沢山おられますので、先生が中学校へ行っても、小学校へ行っても、この先生方に指導いただけるというところでは、そういう段差を感じられる子どもさんについては、非常に有利になっていくのではと感じております。

これから、少子化の中で他市町村を見ておりましたら羽曳野市、河内長野市、柏原市でも小中一貫校というものを実施しております。小中施設一体型の学校もございますが、柏原市とか河内長野市では施設分離型といいますか、今太子町がめざしている小中一貫校という内容で指導していただいております。これについては先例市に学ぶというところもございますので、向こうで経験された先生に講師として来ていただいて各学校に回っていただくと来年度は考えております。出来るだけ多くの指導内容のノウハウを持った先生に来ていただいて、よりスムーズに小中一貫校を目指す取り組みを進めるように出来たらと考えております。先ほど教育委員会の中でも、ご意見ございましたように段差解消だけではなく、取組内容の充実、成果を上げる取り組み、また学力もそうですし、運動能力に対しても、いかに育てていかなければならないか、またそれぞれ山田小学校、磯長小学校、太子中学校のそれぞれの文化については個性を活かし、小中一貫の中で取り組みの一つの柱に据えたらどうかというご意見もございましたので、それについては配慮して取り組みの内容を検討していかなければならないと感じております。

今日、定例の教育委員会でお話しさせていただいた内容は、今説明のありました内容につきまして、それぞれ委員さん方が感じられていることでもありますので、教育委員会としてこのようなことで進めていきたいと思っておりますので、感想も含めてご意見をいただいたらありがたいと思っております。以上です。

○議長（田中町長）

他、何かご意見ありますでしょうか。

私の方からは、説明がありましたように、本町は中学校が1校、小学校が2校ということで、すべてが1つの中学校区であるというところがまず一つの取り組みにあたってのメリットかなというふうに思っています。一応、施設分離型と言いつつ、距離にしてもしれている、歩いても5分程度であり、小さいことを逆にスケールメリットに活かした取り組みと思っております。教職員の方におかれましても、新たな取り組みということでご負担にもなろうかと思っておりますが、よろしく願いいたします。

そういった中で、今回小中一貫校として行うにあたって、外部の人にもこういった新しい取り組みをしっかりとやっているというところを認識いただきたいというのがありますし、見せ方というんですか、もう一つ工夫していただいて、こういった取り組みをしっかりと見せるように、またネーミングも考えているところもありますし、このような取り組みも含めてお願いしたいということです。また、今年度は、予算的な措置は今のところないということですが、必要な予算についてはこれから充分検討させていただけると思っております。町の方もバックアップを当然していきたいと考えておりますのでそういったものがあれば、またあげていただきたいと思っております。令和4年度は教職員の交流、令和5年度は子どもの交流、令和6年度はカリキュラムの交流、年次の取り組みということですが、子どもの交流なんかは取り組めるようなものは、来年度からにこだわらず、今年度からできるようなものは、前倒しで取り組みできるようなものは検討していただければと思います。

○矢野学務指導担当課長

先ほど今お話をさせていただきましたとおり、もちろんこちらは重点取組という形でさせていただくということで、次年度もこの観点で先ほども申し上げたんですけども、行事で子どもたちが交流していくということは推し進めますし、あと小学校同士の交流、いわゆるウェブを使って子どもたちが交流していくということも今のところ計画しているところですので、重点取組という形での年度計画ではありますけれどもそこにこだわらずにやれることからといいますか、子どもたちがいきいきと教育に学んでいけるようにできることをできることからやっていきたいと思っております。

○議長（田中町長）

また Zoom とか、いろいろ授業を配信するというそういった使い方もありますけれど、交流のツールとしても活用していただけるんじゃないかと思っておりますので、よろしくお願いします。他、何か感想はありますか。

○明石委員

今ご説明いただきました義務教育9年間を育てていく、特に太子町は1 中学2 小学校ということで、その特性を活かして子どもを育てていく形になってます。それを今までも取り組まれてきた連携から一貫ですね、さらに深めて教育力を高めていくという形に、これも予てから非常に重要なまちぐるみで子どもを育てるという点での、その狙いが非常に一貫教育でもって取り組むという、非常に重要性がここに出てきているんだなという感を強く思っております。具体的に各世代、各年度取り組む項目を挙げていただきましたけれども、児童生徒の交流、教職員の交流、これも予てから行われてきているんですが、それをさらに活発にして、教育の質を高める、さらに集団の質が全然違いますから、中学校の生徒集団と小学校の児童集団、これの交流を

行う。文化的な側面が非常に異なっていますから、そういうところで今後、先ほど教育長が取り上げられました不登校の問題、段差があるので、それをできるだけ解消できるようにということで、一貫教育、予てから小規模校で取り組まれてきました。小規模校としての問題点があって、集団活動、集団生活の本来の役割がだんだん薄れてきた。一貫教育にして小中学校一緒に生活して活動するという、そういう狙いから教育を高めるといふところへ、ちょっと重点が移ってきているという感じがいたします。段差の問題については、これは確かに小学校から中学校に移る時に不適応が生まれる。これが非常に今問題になっている、従来からずっと問題となっている。これは中学校から高校へ行くときにも非常に大きな問題となっている。これは不登校だけでなく退学ということで大きな問題となって出てきている。それから高校から大学へも、これも問題となって取り上げられることがあります。さらに大学から社会へ出た時の就職状況についてもなかなか定着がということで問題となっている。ですから適応する力を育てるといふ意味合いも大事な点として取り上げないといけないし、その問題に対する対応、先日会議でお聞きしましたが、学校においては不適応状況の子どもに対する対策会議をとられているし、学校における専門的なスクールカウンセラー、ソーシャルワーカーという専門性のある人を入れた会議も定期的に行われたり、それに加えてさらに一步踏み込んだ今回の小中一貫教育の中で、この問題についても対応していくという形になってくるかと思いますが、いくつかの面で、この小中一貫教育の取り組みが期待されてるところが非常に大きいものがあると思います。そういうことで中々同じ学校で取り組む場合に比べて難しいものが沢山あると思う。同じ学校であれば9学年制をとれば段差というのは非常に薄れます。確かに発達段階に応じて変わってきます。子どもたちの集団生活も変わっていくんですけども、中学生であれば大きな段差がなかなか生まれにくい、だから一つの施設による一貫教育というのは、学校生活で自然にそういう部分は解消されていく。ところが、連携型の学校においては離れていますからなかなかその辺が難しいところがありますね。それをどのようにやっていくのかとか、そういう課題があるんですけども、それを今後一步一步、いろいろな取り組みの中で進めていただいで教育力を高めるとともに、課題である不登校の問題にも改善の道をつけていただきたいと思っております。

○議長（田中町長）

これについて事務局どうですか。

○矢野学務指導担当課長

ご意見ありがとうございます。委員がおっしゃるようなやはり段差というのは全くゼロにはならないものであるという観点から、やはりこの段差をしっかりと乗り越えていくという力を育成するという観点も非常に大事なことだと感じます。その中でやはり小学校、中学校では違いは何なのかなっていうことを考えたときに、たとえば教科担任制、小学校は学級担任ですが中学校になったら、教科担任制、それを小

学校高学年で前倒しして実施する、そこに中学校教員が実際に人事交流でそこに配置で小学校の高学年において教科担任制を実施したり、いわゆる段差自体を小さくしながら子どもたちに寄り添って、一緒にそういった段差を乗り越えていこうと、そういう力を育むことが大切だと思います。そういう観点で、一つは人事交流ということが大切なことかなと思っております。もう一点がカリキュラムの編制です。やはり、小学校から中学校の学力面で言いますと、学習内容が非常に中学校に上がると難しくなったりします。そのときに中学校で学ぶことを小学校で予め、少し予習的な学習をしたりということも取り組んでいけるのかな。中学校になったらこういうことを学ぶんだよっていうことを教えるのに、こちらも人事交流と兼ねては来るんですけど、そういったことも取り組みの中で、段差自体を全くゼロというよりは、段差を小さくしながら一緒に乗り越えていくというような観点でも取り組んでいきたいと思っております。その中で大切なのが前段申し上げておりますめざす子ども像であるというふうに考えます。どうしても小学校は卒業させて中学校に送り出すという観点がベースになってくるんですけども、やはり中学校の教員も中学校を卒業したときの子どもたちのイメージ、どういった子どもたちを対象として、どういった子どもを育てていくのかということ、やはりもっと小学校中学校の教員が互いに交流して、統一していくと言いますか、共有する必要があるのかなと思います。そういった観点で、次年度の重点取組を教職員の交流とさせていただいてるのは、めざす子ども像、太子町で学んで中学校卒業時にどんな姿になるのか、どんな姿をめざしていくのかということ、共有していきたいというふうに考えております。以上です。

○議長（田中町長）

他に何かございますでしょうか。

○上籙委員

令和4年度もいよいよもうすぐスタートということで、先生方とか現場の先生方にはすごくご負担をかけてしまうと思うんですが、一保護者としてはすごくわくわくしている、この小中一貫教育です。小学校から中学校に入学するとき、子どもたちってきっと期待と不安とが入り混じっていると思うんですが、やはり保護者としては安心感を持って入学してもらえるのが一番かなと。自分の小学校じゃなかった山田小学校にはあんな子が居てたな、あんな子どもたちと中学校になったら一緒に勉強できるんだとか、中学校から小学校に出張授業じゃないけど、先生が来てくれはって中学校にいったらあの先生の授業が受けれるとか、ああいった部活があるんだとかわかったうえで安心して入学できることがすごく子どもたちにとって、そしてそれが先生たちにとってつながると思います。特に太子中学校は、親としても何回も経験してきたし、自分も中学生経験してきたし、いろいろな経験してきた私ですが、ちょっとびっくりするような事が多い中学校だったんですね。そうすると、ほん

とに小学校までの12年間ぐらいの経験の子どもたちが、同じ中学校に入ることになると小学校の時の期待よりも不安の方が大きくなってしまふんじゃないかと思うような一面もあると感じています。それが太子中学校の魅力だったりもするんですが、そういうところを今回の小中一貫教育として、先ほどから説明があるように不安をなくしたり、安心感を持ってもらうようにしてもらえると良いかなと思います。また、きっと小中一貫校ってスタートにメリットって大きく出ていくんじゃないかと想定しているんですが、それは先ほども言われたのですが、外部への発信の仕方とか、見せ方とかうまく連動してくると、転校してくる子どもの数も増えてくるんじゃないかなと、将来的な期待もします。ゆくゆくは小中一貫校にプラスして町立幼稚園というのが一貫教育の中に入れることができると、町立幼稚園の魅力がもっともっと発信出来たり、連携してるという強みがあって、希望者の人数も増えるのかなとか、今回の一貫教育だけじゃなく、未来的にもワクワクする内容だなと思っています。そして保護者として希望することが一点ありまして、去年のこの会議でも小中一貫校になることになって、制服の選択制、これも考えていただきたいと思っております。世間では性の多様性とかいろいろある中で、まだもしかしたら太子町ではこういった子どもが入学していないかもしれないんですが、入学してから対応しているのでは遅い、特にそこにトライしていただいて、時代であるし入学したときにスカートじゃなくズボンを選べる、ズボンじゃなくスカートを選べる、そういった多様性を受け入れるような、こちらからの準備もこの機会と一緒に考えていただけたらなと思っています。これをお伝えしたときには、町の判断ということを言われたんですが、そこに一步踏み込んで、それぞれの意見を求めていく立場があるんじゃないか、そこを強く希望するところです。そして、それに伴って中学校の体操服、洗濯したとき乾燥しやく干すぶんには保護者としては助かるんですが、上半身があらわになりやすいというんですか、ちょっと工夫していただければ、保護者としても希望する部分があります。長くなりましたが以上です。

○議長（田中町長）

はい、事務局。

○矢野学務指導担当課長

ご意見ありがとうございます。まず保護者の方の安心感、保護者の方の中学校への段差をお感じになられるということで、他市での取り組みを参考にさせていただこうと思っておりますが、たとえば、6年生の時の授業参観のときに保護者の方が学校に来られると思うんですけど、その時に中学校の先生が説明に来るという形で、保護者の方から中学校のことについて質問を、あらかじめ聞いておいて、その質問に答えるとかというような取り組みをされている学校もあるというふうに聞いております。そういったことも考えながら、保護者の方のこういったところに不安感をお持ちなのか、意見をお聞きする場もあると思いますので、そういったことも検討していきたい

と思います。小中一貫の発信については、すごく大切なことだと思っております。他市においても効果的に宣伝といいますか、いい形でしているということもありますので、そちらも参考にさせていただいて、是非太子町としての小中一貫をしっかりと発信していきたいというふうに考えております。あと、幼稚園もということで、こちらも今現在も教職員は幼稚園も交えながらの交流を実施しているところですので、このあたりもしっかり取り組んでいきたいと思います。一足飛びには中々難しいのかなと思いますので、こちらも方向性としての部分を含みながら、取り組んでいきたいというふうに考えます。あと、制服や体操服等のことにつきまして、もちろん保護者のご意見、もちろん子どもたちの意見もあると思います。そういったところをまた意見をしっかりと聞く場を持つこと、そういったことを検討する場面も、学校長等も含めて大切かなと思いますので、そういったことについても、協議と言いますか、ご意見を聞きながら小中一貫ということについて絡めてしっかりと検討していきたいと思っております。以上です。

○議長（田中町長）

やっぱり百聞は一見にしかずということもあるので、様子が見られることができれば安心材料になると思います。今の時代なので普段の様子が見られるとか、ちょっと考えていただきたいなというふうに思います。ほかに何かありますでしょうか。

○仲堅委員

先ほどからの意見が出てきておりますが、保護者の方と住民の方に、こういうふうな事業の刷新をどんどんしていくことが大切だと思います、それも単発じゃなしにそれぞれの締めどきに発信していただければ、保護者の協力、ひいては住民の協力を得られると思いますので、そういうところを工夫していただきたいと思います。

○矢野学務指導担当課長

ありがとうございます。たとえば今現在「太子学び通信」というのを取り組んでおりまして、中学校の定期テストの1週間前に、家庭学習強化週間みたいな形で、それを小中全員に同じプリントということで、勉強がんばりましょうということを発信したり、小中学生が在籍する保護者の方には、そういった周知はさせていただいておりますので、またその住民に対しての周知ということをしっかり検討していきたいというふうに思います。

○議長（田中町長）

ほか、よろしいですか。

○勝良教育長

人的なことですけど、今回、中学校の経験された先生を、この4月の人事異動で太

子町の小学校に異動していただいて、中学校で勉強されたノウハウを小学校の先生方にも伝えていたいただく、というような取り組みをしようと考えております。これについても一つの連携かなと思っています。

○議長（田中町長）

ほかに何かありますでしょうか。事務局も別に何かありますか。

それでは、本日の議題についてはすべて終了とさせていただきます。本日は貴重なご意見等をいただきまして本当にありがとうございます。現在太子町におきましても3回目の集団接種ということで、この万葉ホールで3回目を実施しておりますので委員の皆様方におかれましても、また引き続き接種を受けていただきたいと思います。今ちょうど受験シーズンということになりますので、そういった面でも受験生のコロナ対策に細心の注意を払いながら進めてまいります。最後になりますが、引き続きより質の高い教育を目指しまして進めて参りたいと考えておりますので、改めましてご尽力を賜りますようよろしくお願いいたしまして、閉会の挨拶とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

○東條課長

本日はありがとうございました。本日の総合教育会議を終了させていただきます。ありがとうございました。